

「貧困は社会の問題」

福井解決目指し集会開く

反貧困キャラバン福井実行委員会は19日、

高齢者の貧困問題をテーマにした集会を福井市の県教育センターで開き、約110人が参加しました。「貧困問題は決して自己責任ではなく、社会の制度自体が引き起こしている問題」だと共同して解決をめざすスピーチを採択しました。

ホームレスや生活困窮の人たちを支援するNPO法人ほっとプラスの藤田孝典代表理事が講演しました。高齢者の貧困は65歳以上の18%、特に単身では4

高齢者の貧困問題を考える参加者ら
19日、福井市



くら割が該当すると述べ、生活保護基準なみで暮らす「下流老人」の実態を指摘し、「医療や介護が重くなると生活できなくなる」と

語りました。対策としては、貧困の可視化と支援のネットワークづくりを挙げるとともに、社会保障の受益者負担に対し、「お金を払わなくても利用できる対象を広げていく『脱商品化』が必要だ」と強調しました。

パネルディスカッションでは、医療機関や自治体の現場から発言があり、田嶋清孝・光陽生協クリニック事務長は、低年金で受診を控え、冬に自宅のベランダで行水していた高齢女性を無料低額診療で支援した事例を紹介しました。

福井市の女性(35)は「政治を変えないといけないと思った」と話しました。